衆議院議員 穴見陽一（あなみ よういち） FAX通信 H28年 11月2号

「トランプ時代が始まる」

アメリカの次期大統領がドナルド・トランプ氏に決まりました。世界中が大変驚きました。ただ、決まった以上、我々はこの事実に粛々と対応していくことしかありません。トランプ氏がどんな政治を実際に行うのかはわかりませんが、クリントン氏になったとしても、やはりわからなかったと思います。とにかくこれからのトランプ氏の一挙手一投足にしっかり注目しながら、冷静に対応していくことが大切だと思います。

トランプ氏は選挙戦の最中にも大きく発言を変えてきました。これからも彼の発言や行動は、選挙中の言葉に縛られずに、適時必要な言動をとっていくものと私は予想します。彼は政治経験がありませんから、無知に基づく発言が多かったと思われますが、これから政治実務に直面すれば、様々な歴史的経緯や法的制限等の問題に直面し、都度言動が修正されてくると思います。また議会の協力無くしては法律を作ることが出来ず、仕事が出来ませんから、上下院で過半数であり、出身政党でもある共和党の考え方に寄り添わざるを得ないようになるでしょうから、彼独自の主張はかなりマイルドになるでしょう。

ただ、大きな民意が期待する点については、共和党と協力しながら、大きく舵を切ってくるかもしれません。まずは移民とテロの抑止について、かなり厳しい対応をとってくるでしょう。メキシコとの国境線総てに壁を立て、経費をメキシコに払わすなんてことは出来ないでしょうが、北米自由貿易協定ＮＡＦＴＡを見直して、関税からメキシコに実質的に払わせる等が検討されるかも知れませんし、先端技術を活用した現実的低コストの国境管理強化が進むかも知れません。また、国民や外国人の個人情報やネット情報などのビッグデータ管理が強化されるかも知れません。Ａｐｐｌｅ社やＦａｃｅｂｏｏｋ社などの情報産業民間企業への情報開示の強制措置なども行われるかも知れません。

そして通商の保護主義的傾向が強まる可能性が高いです。ＴＰＰからの離脱やＮＡＦＴＡの見直し等の可能性です。アメリカ国内の失業や格差の問題に対応するために、関税による国内産業保護に舵を切るかも知れません。しかし共和党は伝統的に金融業界の考え方が支配的な政策を取ってきており、国内産業保護は民主党的政策ですから、整合しません。共和党の本心は、ＴＰＰの必要性は認識しながらも、オバマ政権下での交渉結果について不満があり、新政権下での再交渉で、よりアメリカに有利な条件をもぎ取って、共和党の手柄にしたいというのが本心ではないかと思います。トランプ氏にとっても、アメリカを利したという成果がアピール出来れば、ＴＰＰを歓迎すると思います。ただ再交渉となれば、日本はより厳しい条件を飲まされることになるでしょうから、日本としては、再交渉の余地を出来るだけ与えないような状況を作る必要があります。また、中国に対してはかなり厳しい対抗をしていく可能性は高いと思います。

いずれにせよ、予断を持たずトランプ政権と冷静に対峙すべきと思います。

Facebook でも活動報告を行っています。〈Facebook アドレス〉 https://www.facebook.com/anamiyoichi

皆様のご意見をお聞かせください！ お待ちしています。

衆議院議員 穴見陽一（あなみ よういち） 後援会事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 **TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010**

http://www.anamin.net E-mail:info@anamin.net